

# 心サルコイドーシス

## ④ MRI

### 遅延造影LGE

サルコイドーシス患者のうち、心臓病変を示唆する臨床所見を有する症例は5%であるが、本邦のサルコイドーシス剖検例では全体の2/3に心臓病変の存在が報告されている。また、サルコイドーシスが直接死因となった症例の約8割で、心サルコイドーシスがその原因とされている。

- ① 遅延造影LGEは心筋壁のどの部分にも認められるが、心基部寄りの中隔に比較的多い。(たとえばIVS基部の壁運動低下と瘤状の変化) その他側壁、右室にも病変が多い。
- ② 心外膜側あるいは全層性に明瞭な高信号を呈することが多い。完壁性52%、心外膜42%、心内膜6%、乳頭筋
- ③ 心筋壁の、斑状あるいは結節状にぬけた、強い遅延造影効果を示す。
- ④ 遅延造影効果のある部分は、肉芽腫や浮腫、慢性期の線維化などを反映する。
- ⑤ 病変部は急性期は肥厚するが、慢性期には菲薄化する。
- ⑥ 広く造影されるほど炎症の範囲が広く重症。  
LGE領域の増加とともにLV拡大とLV機能低下(いわゆるDCM化)を来す。

### 遅延造影LGEの例

